

第34回

日・韓・中ジュニア交流競技会(卓球)

The 34rd Japan・Korea・China Junior Sports Exchange Meet 2026



(卓球競技全選手団)

期 日：令和8年8月24日(月)～28日(金)

会 場：佐賀県佐賀市 SAGA プラザ

主 催：(公財)日本スポーツ協会

- 1.大会名 第34回 日・韓・中ジュニア交流競技会
- 2.大会期間 令和8年8月24日(月)～28日(金)
- 3.会 場 SAGA サンライズパーク SAGA プラザ
- 4.宿 舎 アパホテル佐賀駅中央 佐賀市駅前中央2-6-14 TEL0570-000-8111
- 5.種 目 男子団体・女子団体
- 6.競技方法 日本・韓国・中国・開催地の4チームによるリーグ戦
- 7.日 程

8月24日(月)	14:00	役員集合
	15:00～	指導者ミーティング
	16:00	選手団集合
	18:00～	開会式(SAGAアリーナ)
	19:30～	夕食
8月25日(火)	8:30～	練習
	10:00～	競技会
	14:00～16:00	練習
8月26日(水)	8:30～	練習
	10:00～	競技会
	14:00～16:00	練習
8月27日(木)	8:30～	練習
	10:00～	競技会
	13:00～15:30	練習
	19:00～	フレンドシップ交流
8月28日(金)	7:00～	朝食後、日本選手団解散

8. 推薦役員・推薦選手名簿

役 職	氏 名	所 属
団 長	宗片 信一	青森県・青森県立青森商業高等学校
男子監督	石田真太郎	福岡県・希望が丘高等学校
女子監督	小林 明史	山口県・山口県立柳井商工高等学校
男子選手	伊藤 佑太	神奈川県・星槎国際高等学校横浜
	郡司 景斗	愛知県・愛工大名電高等学校
	高橋 久遠	岩手県・専大北上高等学校
	島田 翼	山口県・野田学園高等学校
	西面 睦揮	兵庫県・育英高等学校
女子選手	大野 紗蘭	福岡県・希望が丘高等学校
	安藤 海凜	広島県・進徳女子高等学校
	牧野 美玲	神奈川県・星槎国際高等学校横浜
	渡会 宥	大阪府・四天王寺高等学校
	齋木 結心	岡山県・山陽学園高等学校

試合結果

第34回日・韓・中ジュニア交流競技会佐賀大会

Table tennis
2026/8/25

Men's team				Court number	開始時間	終了時間
				1	:	:
JAPAN				5 vs 0	SAGA	
VS SAGA				VS JAPAN		
No.	NAME	SCORE	NAME	No.	NAME	No.
1 S J-1	伊藤 佑太 ITO YUTA	3 12 - 10 11 - 8 11 - 6 0 — —	佐伯 航虎 SAEKI KAZUTO	S-2 S 1		
2 S J-3	高橋 久遠 TAKAHASHI KUON	3 10 - 12 11 - 4 7 - 11 2 11 - 5 11 - 3	山城 陽 YAMASHIRO YO	S-3 S 2		
3 W J-1 J-4	伊藤 佑太 ITO YUTA 島田 翼 SHIMADA TSUBASA	3 11 - 5 11 - 7 13 - 11 0 — —	佐伯 航虎 SAEKI KAZUTO 橋口 煌 HASHIGUCHI KO	S-2 S-5 W 3		
4 S J-5	西面 睦輝 NISHIO MUTSUKI	3 11 - 8 11 - 5 11 - 6 0 — —	福田 葉 FUKUDA YO	S-4 S 4		
5 S J-4	島田 翼 SHIMADA TSUBASA	3 11 - 7 11 - 5 10 - 12 1 11 - 6 —	鈴木 佑海 SUZUKI YU	S-1 S 5		

第34回日・韓・中ジュニア交流競技会佐賀大会

Table tennis
2026/8/25

Women's team				Court number	開始時間	終了時間
				3	10:38	12:25
JAPAN				5 vs 0	SAGA	
VS SAGA				VS JAPAN		
No.	NAME	SCORE	NAME	No.	NAME	No.
1 S J-6	大野 紗蘭 ONO SARA	3 11 - 4 11 - 2 11 - 2 0 — —	梶山 陽菜 KAJIYAMA HINA	S-6 S 1		
2 S J-9	渡会 有 WATARAI HIRO	3 11 - 8 11 - 2 11 - 0 0 — —	浅野 愛華 ASANO AIKA	S-9 S 2		
3 W J-7 J-8	安藤 海凜 ANDO KARIN 牧野 美玲 MAKINO MIREI	3 11 - 4 11 - 2 11 - 6 0 — —	梶山 陽菜 KAJIYAMA HINA 福田 美優 FUKUDA MIYU	S-6 S-7 W 3		
4 S J-10	齋木 結心 SAIKI YUI	3 11 - 9 11 - 7 11 - 7 0 — —	原田 チアン HARADA CHIAN	S-10 S 4		
5 S J-7	安藤 海凜 ANDO KARIN	3 11 - 7 11 - 9 12 - 10 0 — —	深田 瑚晴 FUKATA KOHARU	S-8 S 5		

第34回日・韓・中ジュニア交流競技会佐賀大会

Table tennis
2026/8/26

Men's team				Court number	開始時間	終了時間
				1	10:02	12:27
JAPAN				5 vs 0	KOREA	
VS SAGA				VS JAPAN		
No.	NAME	SCORE	NAME	No.	NAME	No.
1 S J-1	伊藤 佑太 ITO YUTA	3 12 - 10 11 - 8 4 - 11 1 11 - 8 —	金俊錫 KIM JOONSUK	K-5 S 1		
2 S J-3	高橋 久遠 TAKAHASHI KUON	3 13 - 11 11 - 7 10 - 12 1 11 - 5 —	朴旻赫 PARK MINHYEOK	K-4 S 2		
3 W J-1 J-4	伊藤 佑太 ITO YUTA 島田 翼 SHIMADA TSUBASA	3 11 - 4 11 - 9 6 - 11 1 11 - 8 —	吳柳真 OH YUJIN 朴旻赫 PARK MINHYEOK	K-1 K-4 W 3		
4 S J-4	島田 翼 SHIMADA TSUBASA	3 10 - 12 11 - 9 11 - 9 1 11 - 5 —	金秀桓 KIM SOOHWAN	K-2 S 4		
5 S J-5	西面 睦輝 NISHIO MUTSUKI	3 9 - 11 11 - 8 9 - 11 2 11 - 5 11 - 9	金垠奐 KIM DAEHWAN	K-3 S 5		

第34回日・韓・中ジュニア交流競技会佐賀大会

Table tennis
2026/8/26

Women's team				Court number	開始時間	終了時間
				3	10:00	13:00
JAPAN				3 vs 2	CHINA	
VS SAGA				VS JAPAN		
No.	NAME	SCORE	NAME	No.	NAME	No.
1 S J-10	齋木 結心 SAIKI YUI	1 6 - 11 11 - 9 8 - 11 3 5 - 11 —	李 益惠 LI YIHUI	C-10 S 1		
2 S J-6	大野 紗蘭 ONO SARA	3 7 - 11 11 - 9 11 - 9 1 11 - 7 —	赵 王琪 ZHAO WANGQI	C-9 S 2		
3 W J-7 J-9	安藤 海凜 ANDO KARIN 渡会 有 WATARAI HIRO	0 8 - 11 9 - 11 8 - 11 3 — —	李 益惠 LI YIHUI 赵 若含 ZHAO RUOHAN	C-10 C-8 W 3		
4 S J-8	牧野 美玲 MAKINO MIREI	3 11 - 2 11 - 6 11 - 7 0 — —	王 馨雅 WANG XINYA	C-7 S 4		
5 S J-9	渡会 有 WATARAI HIRO	3 11 - 8 9 - 11 11 - 8 2 9 - 11 11 - 7	王 远 WANG YUAN	C-6 S 5		

Men's team				Court number		開始時間		終了時間	
				1		10:00		12:55	
JAPAN				3 vs 2		CHINA			
VS SAGA						VS JAPAN			
		No.	NAME	SCORE		NAME		No.	
1	S	J-5	西面 陸輝 NISHIO MUTSUKI	2	8 - 11 4 - 11 11 - 9 11 - 6 9 - 11	3 王 梓宁 WANG ZINING		C-4	S 1
2	S	J-1	伊藤 佑太 ITO YUTA	3	5 - 11 11 - 6 11 - 9 11 - 3 -	1 郑 鸿博 ZHENG HONGBO		C-5	S 2
3	W	J-1 J-4	伊藤 佑太 ITO YUTA 島田 翼 SHIMADA TSUBASA	2	11 - 8 11 - 3 6 - 11 5 - 11 10 - 12	3 王 梓宁 WANG ZINING 石 俊博 SHI JUNBO		C-4 C-2	W 3
4	S	J-3	高橋 久遠 TAKAHASHI KUON	3	3 - 11 8 - 11 11 - 9 11 - 8 12 - 10	2 伍 毅菲 WU YIFEI		C-3	S 4
5	S	J-4	島田 翼 SHIMADA TSUBASA	3	11 - 8 9 - 11 12 - 10 11 - 6 -	1 胡 溢琄 HU YIYAN		C-1	S 5

Women's team				Court number		開始時間		終了時間	
				3		10:00		12:30	
JAPAN				5 vs 0		KOREA			
VS KOREA						VS JAPAN			
		No.	NAME	SCORE		NAME	No.		
1	S	J-6	大野 紗蘭 ONO SARA	3	11 - 9 6 - 11 11 - 9 7 - 11 11 - 6	2	金珉舒 KIM MINSEO	K-9	S 1
2	S	J-9	渡会 宥 WATARAI HIRO	3	11 - 7 11 - 5 11 - 6 - -	0	李採潤 LEE CHAEYOON	K-6	S 2
3	W	J-6 J-10	大野 紗蘭 ONO SARA 齋木 結心 SAIKI YUI	3	11 - 6 11 - 5 11 - 5 - -	0	徐炫智 SEO HYEONJI 徐我泳 SEO AYEONG	K-7 K-10	W 3
4	S	J-7	安藤 海凜 ANDO KARIN	3	11 - 1 11 - 5 11 - 3 - -	0	琴康恩 KUM KANGEUN	K-8	S 4
5	S	J-8	牧野 美玲 MAKINO MIREI	3	11 - 8 11 - 2 7 - 11 11 - 2 -	1	徐炫智 SEO HYEONJI	K-7	S 5

Men's team				Court number		開始時間		終了時間	
				2		10:30		13:10	
CHINA				3 vs 2		KOREA			
VS KOREA						VS CHINA			
		No.	NAME	SCORE		NAME		No.	
1	S	C-5	郑 鸿博 ZHENG HONGBO	2	10 - 12 7 - 11 11 - 9 11 - 6 6 - 11	3	吳柳眞 OH YUJIN	K-1	S 1
2	S	C-4	王 梓宁 WANG ZINING	3	11 - 5 11 - 6 11 - 5 - -	0	金垠奭 KIM DAEHWAN	K-3	S 2
3	W	C-4 C-2	王 梓宁 WANG ZINING 石 俊博 SHI JUNBO	3	11 - 8 11 - 6 16 - 14 - -	0	金垠奭 KIM DAEHWAN 金俊錫 KIM JOONSUK	K-3 K-5	W 3
4	S	C-3	伍 毅菲 WU YIFEI	3	11 - 6 11 - 9 11 - 8 - -	0	朴旻赫 PARK MINHYEOK	K-4	S 4
5	S	C-1	胡 溢琯 HU YIYAN	1	9 - 11 4 - 11 11 - 6 6 - 11 -	3	金秀桓 KIM SOOHWAN	K-2	S 5

Women's team				Court number		開始時間		終了時間	
				4		10:30		13:30	
KOREA				1 vs 4		CHINA			
VS CHINA						VS KOREA			
		No.	NAME	SCORE		NAME		No.	
1	S	K-9	金珉舒 KIM MINSEO	0	9 - 11 7 - 11 17 - 19 - -	3	李 益惠 LI YIHUI	C-10	S 1
2	S	K-10	徐我泳 SEO AYEONG	1	6 - 11 8 - 11 12 - 10 8 - 11 -	3	赵 王琪 ZHAO WANGQI	C-9	S 2
3	W	K-6 K-7	李採潤 LEE CHAEYOON 徐炫智 SEO HYEONJI	0	10 - 12 9 - 11 4 - 11 - -	3	李 益惠 LI YIHUI 赵 若含 ZHAO RUOHAN	C-10 C-8	W 3
4	S	K-8	琴康恩 KUM KANGEUN	1	11 - 4 7 - 11 5 - 11 9 - 11 -	3	王 馨雅 WANG XINYA	C-7	S 4
5	S	K-6	李採潤 LEE CHAEYOON	3	11 - 9 6 - 11 11 - 6 11 - 8 -	1	王 远 WANG YUAN	C-6	S 5

Men's team				Court number		開始時間		終了時間	
				2		10:00		12:15	
CHINA				4 vs 1		SAGA			
VS SAGA						VS CHINA			
		No.	NAME	SCORE		NAME	No.		
1	S	C-2	石 俊博 SHI JUNBO	3	11 - 6 14 - 12 11 - 7 - -	佐伯 航虎 SAEKI KAZUTO	S-2	S	1
2	S	C-4	王 梓宁 WANG ZINING	3	11 - 3 11 - 5 11 - 6 - -	鈴木 佑海 SUZUKI YU	S-1	S	2
3	W	C-4 C-3	王 梓宁 WANG ZINING 伍 毅菲 WU YIFEI	2	8 - 11 11 - 7 11 - 5 6 - 11 5 - 11	佐伯 航虎 SAEKI KAZUTO 橋口 煌 HASHIGUCHI KO	S-2 S-5	W	3
4	S	C-5	郑 鸿博 ZHENG HONGBO	3	11 - 4 11 - 8 8 - 11 11 - 3 -	福田 葉 FUKUDA YO	S-4	S	4
5	S	C-1	胡 溢琤 HU YIYAN	3	11 - 9 11 - 8 10 - 12 11 - 8 -	山城 陽 YAMASHIRO YO	S-3	S	5

Women's team				Court number		開始時間		終了時間		
				4		10:00		11:53		
KOREA				5 vs 0		SAGA				
VS SAGA						VS KOREA				
		No.	NAME	SCORE		NAME	No.			
1	S	K-6	李採潤 LEE CHAEYOON	3	11 - 7	0	福田 美優 FUKUDA MIYU	S-7	S	1
					11 - 7					
					11 - 9					
					-					
					-					
2	S	K-9	金珉紓 KIM MINSEO	3	11 - 1	0	浅野 愛華 ASANO AIKA	S-9	S	2
					11 - 3					
					11 - 7					
					-					
					-					
3	W	K-7 K-8	徐炫智 SEO HYEONJI 琴康恩 KUM KANGEUN	3	13 - 11	0	福田 美優 FUKUDA MIYU 深田 瑚晴 FUKATA KOHARU	S-7 S-8	W	3
					11 - 4					
					11 - 3					
					-					
					-					
4	S	K-7	徐炫智 SEO HYEONJI	3	11 - 7	0	原田 チアン HARADA CHIAN	S-10	S	4
					11 - 3					
					11 - 4					
					-					
					-					
5	S	K-10	徐我泳 SEO AYEONG	3	11 - 4	0	梶山 陽菜 KAJIYAMA HINA	S-6	S	5
					11 - 6					
					11 - 3					
					-					
					-					

Men's team				Court number		開始時間		終了時間	
				2		10:00		13:00	
KOREA				5 vs 0		SAGA			
VS SAGA						VS KOREA			
		No.	NAME	SCORE		NAME		No.	
1	S	K-5	金俊錫 KIM JOONSUK	3	11 - 9 11 - 7 11 - 8 - -	0	鈴木 佑海 SUZUKI YU	S-1	S 1
2	S	K-3	金垚奐 KIM DAEHWAN	3	6 - 11 13 - 15 11 - 8 14 - 12 11 - 6	2	佐伯 航虎 SAEKI KAZUTO	S-2	S 2
3	W	K-1 K-2	吳柳眞 OH YUJIN 金秀桓 KIM SOOHWAN	3	12 - 10 8 - 11 13 - 11 6 - 11 11 - 9	2	佐伯 航虎 SAEKI KAZUTO 橋口 煌 HASHIGUCHI KO	S-2 S-5	W 3
4	S	K-1	吳柳眞 OH YUJIN	3	9 - 11 6 - 11 12 - 10 11 - 4 11 - 7	2	福田 葉 FUKUDA YO	S-4	S 4
5	S	K-4	朴旻赫 PARK MINHYEOK	3	5 - 11 7 - 11 11 - 2 11 - 9 11 - 9	2	山城 陽 YAMASHIRO YO	S-3	S 5

Women's team				Court number		開始時間		終了時間	
				4		10:00		11:51	
CHINA				5 vs 0		SAGA			
VS SAGA						VS CHINA			
		No.	NAME	SCORE		NAME	No.		
1	S	C-10	李 益惠 LI YIHUI	3	11 - 6 11 - 5 11 - 3 - -	梶山 陽菜 KAJIYAMA HINA	S-6	S	1
2	S	C-9	赵 王琪 ZHAO WANGQI	3	11 - 5 5 - 11 11 - 7 11 - 5 -	深田 瑚晴 FUKATA KOHARU	S-8	S	2
3	W	C-10 C-8	李 益惠 LI YIHUI 赵 若含 ZHAO RUOHAN	3	11 - 6 11 - 3 11 - 5 - -	福田 美優 FUKUDA MIYU 浅野 愛華 ASANO AIKA	S-7 S-9	W	3
4	S	C-7	王 馨雅 WANG XINYA	3	11 - 2 11 - 4 11 - 5 - -	原田 チアン HARADA CHIAN	S-10	S	4
5	S	C-6	王 远 WANG YUAN	3	11 - 4 11 - 8 11 - 6 - -	福田 美優 FUKUDA MIYU	S-7	S	5

大会スナップ1





『第34回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して』 ～日韓中交流の歴史の中で初めての快挙～

日本選手団 団長 青森県立青森商業高等学校 宗片 信一

第34回日本・韓国・中国ジュニア交流競技会佐賀大会に参加し、今年の日本選手団が成し遂げた成果は、長い大会の歴史の中でも特筆すべきものであった。とりわけ、男女ともに4戦全勝を収め、そろって総合1位を獲得したことは、34回に及ぶ大会の歴史の中で初めての快挙であり、日本ジュニアの競技力の高さを国内外に強く示す結果となった。

さて試合を振り返ると、大会序盤から選手たちは高い集中力を保ち、各国の代表選手と堂々と渡り合った。中でも中国戦は、男女ともに3対2という接戦を制しての勝利であり、まさに日本選手の粘り強さと、勝負どころで強さが光った試合であった。中国はこれまで本大会において常に高い競技力を示してきた国であり、その中国に男女ともに競り勝ったことは、選手たちの技術的成長と精神的な成熟を象徴するものと言える。

一方、韓国戦では男女ともに5対0という圧倒的な勝利を収めた。試合内容も安定しており、序盤から主導権を握り続ける展開が多く見られた。韓国もまた本大会で強豪として知られる国であるが、その韓国を相手に完勝したことは、日本ジュニアの総合力が確実に向上していることを示す結果となった。

今回の男女そろっての全勝、そして総合1位という成果は、大会の歴史を振り返っても極めて価値の高いものである。気候条件や試合環境、海外選手との対戦によるプレッシャーなど、さまざまな要素が選手のパフォーマンスに影響を与える中で、全勝を達成したことは、選手一人ひとりの努力と高い技術レベルが結実した証である。試合を通じて、選手たちの技術的な完成度、戦術理解、そして勝負に対する執念が、これまで以上に高まっていることを強く感じた。

私が3年前に参加した本大会では、日本選手は善戦したものの、中国選手の気迫に押され気味であり、攻撃力の面でも及ばなかった。具体的には、パワー、スピード、サーブ、レシーブのいずれにおいても中国選手が上回っていた。しかし、その差は決して大きなものではなく、追いつき、追い越すことは十分に可能だと感じていた。各選手が自らの課題を見つけ、それを克服するために粘り強く練習を重ね、着実にレベルアップを図れば、近い将来、日本が中国の牙城を崩すことも夢ではないと思っていたのである。そして今回、その思いの一端が現実となり、日本選手たちは見事にその可能性を証明してくれた。

さらに、この歴史的な成果は、日本のジュニア世代全体にも大きな好影響を及ぼすと確信している。今回の勝利は、代表選手だけでなく、日本全国のジュニア選手や指導者にとって大きな励みとなり、自信と誇りを持って日々の練習に取り組む原動力となるだろう。また、今後、海外選手と対戦する際には、今回の全勝という実績が精神的な支えとなり、より自信を持って試合に臨むことができるはずである。

最後に、日本スポーツ協会、日本卓球協会の皆様、そして現地で大会の運営やサポート、ご指導に携わっていただいた佐賀県卓球協会の関係者の皆様には、大変お世話になりました。この場をお借りして、心より深く御礼申し上げます。

今回の大会で得られた成果は、単なる勝敗以上の価値を持つものである。日本ジュニアの未来を切り開く大きな一歩として、この歴史的な全勝を心から称えたい。

男子監督 希望が丘高等学校 石田真太郎

今回、日本・韓国・中国ジュニア交流競技会に参加させて頂き、誠にありがとうございました。団長含め総勢247名の11競技で開催されました。8月19日に、日本選手団監督会議があり、競技会に向けて色々なお話や打ち合わせがありました。

大会は、佐賀県佐賀市で行われるため佐賀駅近くのホテルに集合し、大会会場に移動した後、卓球競技監督による顔合わせ、監督会議が行われました。この大会も34回目を迎え、とても歴史と意味深い大会であると再認識し、監督としての責任を感じました。

大会初日は、地元佐賀県チームとの対戦でした。チームの特徴は、九州地区でも上位進出している学校があり、力も十分にあります。サービスから3球目攻撃がうまく、打球スピードが速く攻撃してくる事を重要なポイントにし

ました。選手には、「レシーブをしっかり判断し、緩急をつける事で変化によって卓球のスタイルを崩す展開を作れるようにしました。結果、地元佐賀県チームに5-0で、勝利することができました。2日目は、韓国チームと対戦でした。韓国チームの特徴は、打球スピードが速く、中陣でのプレーを中心にラリーをしてくる事を重要なポイントにしました。その指示で戦い、5-0で勝利することができました。3日目は、中国チームと対戦でした。中国チームの特徴は、台上技術のレベルが高く、どこからでもフォアハンド強打を打たれるので、打たせないようにする事を重要なポイントにしました。その中国戦では、台上のしかけが甘く入り、中国選手に強打を打たれる場面が多くありました。しかし、重要な場面では日本の選手の持ち味のラリー力が発揮され、自分達の卓球スタイルで戦うことができました。その結果、接戦の試合をものにし、3-2で勝利することができました。34回の内にリーグ戦全勝し、一位になったのは初めてではないかと、そして女子も全勝し、アベック一位は始まって以来ではないかという話でした。選手達は、どんな大会でも中国に勝つことは難しく大きな目標であり、今後の卓球人生に大きく響く試合であったと感じました。3試合を終え、試合での課題が見つかり、これからの卓球人生につなげ、さらに高い目標に向けて努力してほしいと伝えて終わりました。

大会の最終日には、フレンドシップ交流が行われ、各国の色々な競技による出し物(ダンス・歌・舞踊)があり、全員が盛り上がりとても楽しい交流ができたと感じました。e スポーツではレーシングが行われ、多くの選手が盛り上がり国と国の交流がしっかりでき、互いの文化や考え方を理解し深めることができたと思います。このような経験は本当に初めてで、とても充実した時間を過ごすことができました。とても楽しかったです。

最後になりますが、大会期間を通して、準備に際してご尽力頂いた方々に感謝し、今回の経験を活かし、高い目標に向けてさらに努力していきたいと思います。ありがとうございました。

女子監督 山口県立柳井商工高等学校 小林 明史

日本・韓国・中国ジュニア交流競技会への参加にあたり、多大なるご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございました。本大会は東アジア諸国との青少年スポーツ交流を促進して相互理解を深めるとともに、各国のジュニア層の競技力向上を図る目的で開催されています。全11競技が行われ、卓球競技には日本、韓国、中国の選手団に加え、地元・佐賀県選手団を合わせた総勢52名が参加しました。

8月24日(金)、アパホテル佐賀駅中央に集合し、宗片団長から選手団としての心構えについてお話いただきました。その後、注意事項やスケジュールの確認を行い、バスで開会式会場のSAGA サンライズパークへ移動。全競技合同の開会式に臨みました。開会式では各国の団長挨拶や選手宣誓のほか、大迫力の和太鼓パフォーマンスなどが行われ、明日からの競技に向けた士気と活力が高まりました。

大会初日は地元・佐賀県選手団との対戦となり、5-0で勝利することができました。地元選手にとっても高校トップクラスの選手と対戦する貴重な機会になったことと思います。

2日目は中国選手団と対戦しました。これまで日韓中交流大会において女子チームが中国に勝利した実績はなく、何としても女子チーム初勝利を挙げたいという強い思いで臨みました。1番の齋木選手(山陽学園)は健闘したものの、相手選手の回転量の多いボールに対応しきれず1-3で惜敗。2番のインターハイ王者・大野選手(希望が丘)は緩急をつけた打球と積極的な攻撃で要所を締め、3-1で勝利しました。3番のダブルス(進徳女子・安藤選手/四天王寺・渡会選手)は初ペアリングでの出場となりました。サーブ・レシーブで優位に立ちたかったものの、ラリーで相手の威圧感ある打球に押され、ストレートで敗戦となりました。4番では、インターハイ準優勝の牧野選手(星槎横浜)がキレのあるサーブと威力を増したバックハンドで得点を重ね、3-0で完勝。勝負の行方はラストの5番、インターハイベスト8の渡会選手に託されました。渡会選手はサーブとバック表ソフトのナックルボールを有効に使い、第1・第3ゲームを先取。第2・第4ゲームはドライブを両コーナーに打ち分けられて惜しくも落とし、勝負は最終ゲームへ持ち込まれました。最終ゲームではフォアストレートへの展開と要所での回転量の多いドライブをミドルへ集め、渡会選手が勝ちきり見事な勝利。女子チームとして念願の対中国戦初勝利を達成しました。

3日目は韓国選手団と対戦しました。1番では韓国のエースであるカットマンに対し、大野選手が粘り強いカッ

ト打ちと勝負所でのスマッシュを織り交ぜ、3-2 のフルゲームの末に勝利して幸先の良いスタートを切りました。結果、5-0 で韓国選手団にも勝利し、全勝で大会を締めくくりました。

今年のチームは、インターハイ 1 位の大野選手、2 位の牧野選手、ベスト 8 の渡会選手に加え、国際大会の経験がある安藤選手・齋木選手という最高レベルの強力な布陣で臨むことができ、中国・韓国の双方に勝利できたことは非常に価値のある成果となりました。

試合後のフレンドシップ交流では、各国・各競技の選手によるダンスや歌の披露があり、大変盛り上がる交流の場となりました。また、新たな試みとして実施された e スポーツ(レーシング競技)には、卓球競技から高橋選手・西面選手の 3 年生コンビが出場しました。競技の枠を超えて親睦を深め、異文化や異なる考え方を直接理解する大変良い機会となりました。

最後になりますが、大会期間を通じたご準備や運営にご尽力いただきました日本スポーツ協会をはじめ、日本卓球協会、佐賀県卓球協会、用具をご提供くださった卓球メーカーの皆様にご心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

星槎国際高等学校横浜 2 年 伊藤 佑太

今回の日韓中ジュニア交流会では、日本代表として大会に参加し、韓国、中国、佐賀県代表との試合を通して、競技面だけでなく、選手同士の交流や国際大会での経験を積むことができた。日本男子は 3 試合すべてに勝利し、チームとして優勝することができた。自分自身も佐賀県代表との試合ではシングルスとダブルスに出場し、どちらも勝利することができた。韓国代表との試合でもシングルスとダブルスの両方で勝利し、チームの勝利に貢献することができた。特に韓国戦のシングルスでは、競った場面でも焦らずにプレーし、相手の特徴を考えながら試合を進めることができた。一方で、得点が競った場面では自分から仕掛けるプレーが少なくなり、相手に流れを渡してしまう場面もあったため、今後の課題だと感じた。

中国代表との試合では、チームとして最後まで声を掛け合い、全員で一つの目標に向かって戦うことの大切さを改めて感じた。試合前の準備やベンチでの応援など、コートに入っている選手だけでなく、チーム全員で戦うことが勝利につながると実感した。また、韓国や中国の選手と実際に試合や交流をすることで、プレースタイルや考え方の違いを知ることができ、とても貴重な経験になった。

今回の大会を通して、国際大会では技術だけでなく、試合の流れを読む力や精神面の強さ、チームとして戦う力が重要だと感じた。今後は、今回見つかった課題を普段の練習から意識し、競った場面でも自分から積極的に仕掛けられる選手になりたい。そして、国内大会だけでなく、海外の選手と対戦する機会でも自分の力を発揮し、さらにレベルアップできるよう努力していきたい。

野田学園高等学校 2 年 島田 翼

今回、日・韓・中ジュニア交流卓球競技会に参加して、普段の大会では経験できない、たくさんの貴重な経験を行うことができました。この大会には、日本だけでなく韓国、中国、そして開催地である佐賀県の選手が参加し、三日間にわたって試合や交流を行いました。自分は大会に参加する前から、外国の選手と試合をすることに楽しみな気持ちがあり、自分の技術がどこまで通用するのかという気持ちもありました。

実際に試合をしてみると、韓国や中国の選手は一球一球への集中力が高く、ボールのスピードや回転、コースの厳しさなど、普段対戦する選手とは違った強さを感じました。特に、少しでも甘いボールを出すとすぐに攻撃されてしまい、相手に主導権を握られないためには、最初の一本目から自分から攻めることが大切だと分かりました。また、苦しい場面でも簡単にあきらめず、最後まで一本を取りにいく姿勢もとても印象に残りました。

試合では、自分の思うようなプレーができず、悔しい場面もありました。しかし、その中で自分に足りない技術や、これから練習しなければならない課題を具体的に見つけることができました。特に、レシーブからの三球目攻撃や、相手の回転に合わせた台上技術など、もっと安定させなければならない部分があると感じました。強い選

手と実際に対戦したからこそ、自分との差を肌で感じる事ができたと思います。

また、この大会では卓球の技術だけでなく、国を越えた交流の大切さも学びました。言葉が十分に通じなくても、卓球を通して相手とつながることができ、試合の後にはお互いに笑顔であいさつすることができました。スポーツには、言葉の違いを越えて人と人をつなぐ力があるのだと実感しました。

今回の大会で得た経験を、これからの練習や試合に生かしていきたいです。今回感じた悔しさや刺激を忘れず、技術面だけでなく精神面でも成長できるように努力したいと思います。そして、いつか自分も国際大会で活躍できる選手になり、今回出会った選手たちともう一度対戦できるよう、これからも一日一日の練習を大切にしていきたいです。

専大北上高等学校 3年 高橋 久遠

今回は日韓中ジュニア交流という素晴らしい大会に出場させていただき、ありがとうございました。今回、日韓中ジュニア交流会の卓球競技に参加し、卓球の技術だけでなく、国や言葉が違っててもスポーツを通して交流できることの素晴らしさを学びました。大会に参加する前は、他の国の選手と試合をすることに少し緊張していました。普段とは違う環境で、どのようなプレイスタイルの選手と対戦するのか分からなかったからです。しかし、実際に会場に行ってみると、選手たちは試合前後に笑顔であいさつをしたり、身振り手振りを使って話したりしていて、すぐに緊張がほぐれていきました。

試合では、自分の得意なプレーを出せた場面があった一方で、相手の速いボールや回転の変化に対応できず、思うようにプレーできない場面もありました。特に、韓国の選手のサービスからの三球目攻撃や、中国の選手の回転量の多いラリー中のコースの変化への対応力など、自分にはまだ足りない技術が多くあることに気付きました。ですが、自分とは違うプレイスタイルの選手と対戦できた点は自分にとってとても大きな経験になりました。相手の良かったところを見て、自分の練習に取り入れていきたいと思いました。

また、日韓中ジュニア交流では、卓球の試合だけでなく、他国の選手と一緒に過ごす時間も印象に残りました。言葉がうまく通じなくても、卓球をしたり、笑ったり、簡単な英語や身振り手振りでコミュニケーションを取ったりすることで、少しずつ距離が縮まっていくことを実感しました。最初は国が違うことで遠い存在に感じていた選手とも、交流を重ねるうちに友達のように感じられるようになりました。スポーツには、人と人をつなぐ力があるのだと思いました。

今回の経験をこれからの練習や大会に生かし、技術だけでなく精神面でも成長していきたいです。そして、今回出会った選手たちとの交流を大切に、これからも卓球を通して多くの人とつながっていききたいと思いました。

育英高等学校 3年 西面 睦揮

今回、「日・韓・中ジュニア交流競技会」に参加して、世界トップレベルの技術のすごさを肌で感じると同時に、スポーツを通して国を越えた友達ができることの素晴らしさを実感しました。日本、韓国、中国という、世界の卓球をひっぱり手強豪国の選手たちが集まるこの大会は、自分にとって本当に大きな経験になりました。

試合の中で一番強く感じたのは、海外の選手たちの守備のうまさです。中国や韓国の選手たちと実際に試合をしてみると、いつもなら決まっているはずのボールが決まらなかったり、どんなにピンチの場面でも冷静にプレイしたりするのを見て、自分も守備の練習を増やしていかないとだめだなと強く思いました。

大会で必要なのは、試合の勝ち負けだけではありません。一番印象に残っているのは、試合が終わったあとの選手たちの姿です。コートの中ではお互いに絶対に負けられないライバルとして本気で戦っていたのに、試合が終わった瞬間からお互いの健闘をたたえ合い、笑顔でハイタッチをしたり話したりしていました。言葉や文化が違ってても、卓球というスポーツを通して分かり合えるのだなと感動しました。

さらに、試合以外の時間での交流も、すごく楽しい思い出になりました。違う国で育った同世代の人たちと、お互いの国のことや趣味について話した時間は、自分の世界を広げてくれました。世界中に自分と同じように卓球

が大好きで、毎日がんばっている仲間がいるのだと思うと、これからの練習ももっとがんばろうというエネルギーがわいてきます。

今回の大会で味わった悔しさも、みんなと楽しく過ごした時間も、すべてがこれからの自分の大きな力になるはずです。ここで得た経験をただの思い出で終わらせず、経験を活かしていきこれからも一歩ずつ前進していきたいと思います。

希望が丘高等学校 3 年 大野 紗蘭

今回の第 34 回日韓中ジュニア交流競技会に参加させていただきありがとうございました。今回の日中韓合宿でたくさんを経験することができました。その中でも特に思ったことが 3 つあります。

1 つ目は、カット打ちがまだまだ足りないと思ったことです。韓国人選手のカットマンと試合した時に、浮いてきた高く切れたボールに対してスマッシュを打ちに行って何回もネットにかかってミスが出てしまいました。後半からは高く切れたボールが来て相手に誘われても繋いで、切れてないボールを狙ってやっと勝つことができました。それを前半からできるように、高いボールでもしっかりと回転を見て考えて打つということを意識してカット打ちできるよう練習したいと思いました。また、攻撃を混ぜられた時に対応できないことが結構多かったです。カット打ちをしながら相手に攻撃されても取れるよう練習しないといけないと思いました。

2 つ目は、チキータです。中国の選手とした時に、レシーブはもちろんなのですが、自分が攻撃に繋げようとして相手のサーブをストップした時にもチキータされて相手に先手を取られてしまうことが結構ありました。自分も先手を取れるように練習したいなと思いました。

3 つ目は緩急です。中国人選手と対戦した時に、強く打たれた速いボールと、逆にゆっくりで回転量が多いボールを使い分けられてミスが結構出てしまいました。待って打つことを意識してミスを減らせるようにしていきたいです。また、自分も速いボールとゆっくりなボールの使い分けをできるようにしたいと思いました。

今回の日中韓ジュニア交流会に参加してたくさん学んだことを意識して練習していきたいです。

また今回の交流会では、最終日に全競技で集まりレクリエーションをする時間があり、e スポーツや各競技からの出し物を見る時間もあり、とても楽しかったです。参加させていただきありがとうございました。

進徳女子高等学校 2 年 安藤 海凜

この度は日・韓・中ジュニア交流競技会に参加させていただき、心より感謝申し上げます。

初日集合して、日の丸の付いたユニフォームなどを支給していただいた際、「代表なんだ」と身の引き締まる思いをしました。同時に韓国・中国代表の方々と試合や交流ができることにもワクワクして楽しみでもありました。何より日本代表選手として団体戦を組み、4名の選手の皆さんと一緒に戦えるということが 1 番嬉しかったです。

まず佐賀県団の選手とは、国内選手なので過去にも当たった事は何度もありましたが、やはり高校生となってレベルやパワーも上がっているので難しいところもありました。

次に中国とは私はダブルスで対戦しましたが、とにかくパワーがあり、最初は簡単にボールを抑えることができませんでした。また回転量が多い分、ボールのスピードが遅い印象があり、特に下回転ドライブなどの際はとても返球しづかったです。

韓国の選手は、中陣からのプレーがとても上手だなと感じました。またサーブの回転がわかりづらい印象がありました。下回転と横回転の判断がすぐにできず、レシーブに苦戦しました。ですが中国人選手よりもボールの返球はしやすかったです。

試合終了後は、国境越えて練習やミニゲームをした事も良い経験となりました。言葉は通じなくても、卓球を通じてひとつになり、試合での勝敗関係なく、みんなで笑い合えたのは、今まで体験した事がない新しい感動でした。

今回、日本代表男子選手団は昨年に引き続き中国に勝利し二連覇、女子は日韓中交流 34 回の歴史の中で中国に初勝利し優勝を獲得することができました。また大会史上初の日本代表選手団が男女揃ってアベック優勝と

いう記録を刻んだ瞬間に立ち会えた事、そのメンバーの1人として一緒に戦えた事をとても嬉しく思いますし、大変誇りに思います。ありがとうございました。

このような偉業を日本代表チームとして成し遂げる事ができましたのは、JSPO(公財)日本スポーツ協会の皆様、全国高体連卓球専門部の皆様、佐賀県高校生や卓球関係の皆様の協力添えをいただいたおかげです。感謝を申し上げます。引率をしてくださった団長の宗片先生、男子監督の石田先生、そして女子監督の小林先生には、試合のみならず、宿泊先やフレンドシッププログラムでもサポートしていただき、誠にありがとうございました。またチームとして一緒に戦ってくれた日本代表選手の皆さんにも、試合だけではなく練習中なども、サーブやコース取りなど、卓球の戦術の部分で刺激を受ける事が多々ありました。5日間本当にお世話になりました。

これからも様々な大会に向けて、日本選手や海外選手の見習うべき行動、卓球での技術・戦術などをしっかりと整理し、この期間で学んだ事を活かし日々練習に励んでいきます。本当にありがとうございました。

星槎国際高等学校横浜 3年 牧野 美玲

今回の日韓中交流大会では、卓球を通して中国や韓国の選手と交流し、仲を深めることができたことがとても良かったです。日韓交流で交流した選手と再会する機会になったり、昔会ったことのある中国選手とも再会したりしました。一緒に練習をしたり、試合以外の時間に話をしたりすることで、国が違っても卓球を通して仲良くなれることを実感しました。言葉が通じにくい場面もありましたが、英語や韓国語を単語ごとに使ったり、身振り手振りも交えながらコミュニケーションを取ったりすることで、楽しく交流することができました。今回の交流を通して、中国や韓国の選手をより身近に感じることができ、これから海外の大会に出場する際にも積極的に交流していきたいと思いました。

また、今回の大会では初めてアベック優勝をすることができ、とても嬉しかったです。個人として良い結果を残すだけでなく、男女ともに優勝することができたことで、日本チームとしても素晴らしい結果を残すことができたと思います。優勝するまでには苦しい試合もありましたが、最後まで諦めずにプレーすることができました。また、今までの高体連事業とは違い、団体戦での試合だったので、よりチームの団結力が高まり、みんなで戦うことができたと思います。

一方で、試合の中では自分の技術や試合運びについて、まだまだ改善しなければならない部分も見つかりました。中国選手や自分以外の日本選手は、自分から積極的に攻めていく展開が多かったのも、私も見習ってみたいです。また、海外の選手と実際に試合をすることで、日本の選手とは違ったプレイスタイルや戦い方を経験できたことも大きな収穫でした。

今回の日韓中卓球大会で得た経験を今後の練習や大会に生かし、さらにレベルアップして、より良い結果を残していきたいです。また、卓球の技術だけでなく、海外の選手との交流も大切に、卓球を通じて多くの人とつながっていきたく思います。今回の大会で得た経験を自信に変え、これからも国内外で活躍できる選手を目指して頑張ります。

四天王寺高等学校 2年 渡会 有

今回は日韓中ジュニア交流競技会に参加させて頂きありがとうございました。

試合の反省は、中国選手や韓国選手の回転量が多いボールに対して抑えきれなかったり、バックの時にスリップしてミスが増えてしまったりしたこと事です。回転量が多いボールに対しての対応をしっかり練習していこうと思います。

メンタル面では、競った場面で勝ち急いで簡単にミスをしてしまう場面が多かったです。競った場面こそ落ち着いて戦術を考えてプレーできるように意識していきます。

また、試合後の交流では他国の選手と一緒に練習をしたり、自分の話せる限りの言葉やジェスチャーを使ってコミュニケーションを取ったりする事で、仲を深める事ができました。普段なかなかできない、中国選手や韓国選

手と練習をする事ができてとても良い経験になりました。

今大会では、たくさんの方々に支えて頂き、不自由なく試合に専念する事ができました。そのおかげで、良い結果を出す事ができました。大会の運営やサポートなど、携わってくれた関係者の皆様本当にありがとうございました。今回の大会で得た経験を今後に活かして、更にレベルアップできるように頑張ります。

山陽学園高等学校 3年 齋木 結心

今回、私は日本の選手として第34回日韓中ジュニア交流競技会に参加し、卓球を通して韓国や中国の選手たちと交流することができました。普段の大会ではなかなか経験することのできない、海外の選手との試合や交流をすることができ、とても貴重な経験になりました。

今回の交流競技会を通して、技術的な面で特に3つのことを学びました。

1つ目は、サーブ・レシーブの重要性です。韓国や中国の選手と試合をして、サーブから3球目につなげる形や、相手のサーブに対して正確にレシーブする技術の高さを感じました。自分もサーブの回転やコースを工夫し、相手に簡単に攻撃されないレシーブを身につけたいと思いました。

2つ目は、ラリーの安定性です。相手選手は強いボールを打つだけでなく、ミスを少なくして長いラリーを続ける力がありました。自分は焦って強く打とうとしてミスをしてしまうことがあるので、まずはボールを安定して返し、チャンスが来たときに攻撃することを意識したいです。

3つ目は、試合中の判断力です。相手のプレースタイルや自分の調子に合わせて、攻撃するのか守るのか、どこにボールを打つのかを考えることが大切だと感じました。これからは練習の中でも試合を意識し、相手の特徴を見て戦術を変えられるようにしていきたいです。今回学んだ3つのことをこれからの練習に生かし、技術をさらに向上させていきたいです。

また、交流の時間では、身振り手振りを使って話したりすることで、少しずつ相手との距離を縮めることができました。言葉や文化が違っていても、自分から積極的に行動することが大切だと学びました。また、卓球を通して国や言葉の壁を越えて交流できることの楽しさも実感しました。このように、韓国や中国の選手とプレーや交流をすることでたくさんの刺激をもらい、今後の自分の成長につながる、かけがえのない経験となりました。

大会を開催してくださった方々や、交流の機会を作ってくださった皆さん、ありがとうございました。今回の経験を当たり前だと思わず、支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからの練習や大会に取り組んでいきたいです。



全日程終了後に韓国選手団と